

温篤新聞

通巻136号



『医療にGo Toキャンペーン!』

政府の経済基調は「持ち直しの動きが見られる」といっていますが、以前に比べての判断でしかないので、コロナによって大打撃を受けた観光業や飲食業の人々は依然苦しい経営状況に陥っている事と思います。

しかし、政府によるGo Toキャンペーンが始まりコロナ禍における経済活動の刺激になっていくようです。Go To トラベルによって観光業が、Go To イートによって飲食業が、そして今後はGo To イベントやGo To 商店街に

よって、より多くの業界に支援が届くことを願っております。

そんな中、コロナウイルス・コロナ患者と闘う最前線ともいべき医療業界も大打撃を受けています。Go To ○○というわけにも行かず経営危機が迫っています。

コロナ患者を受け入れることで病床が不足し、通常の入院患者を制限しなければならなかったり、人手不足などから一般患者を制限したり、手

医食同源 あんず

喉や気管支を潤す作用があります。痰を切り、咳を鎮めるので、喘息や喉の渇きに効果的です。また腸も潤してくれるので便秘の解消にも用いられます。

アンズには身体を温める作用があり、冷え性の人は日頃から食しても良いでしょう。干しあんずは、生に比べると素早く吸収されるので、より効果的です。但し多食すると吹き出物の原因にもなるので注意が必要です。



今月のツボ

地機(ちき)

「地」は、とち、つち、ど、で、土は東洋医学でいう五行の脾の臓・胃の腑のことを表します。

「機」は、からくり、事の変換、物事の重要なこと、機密と

いう意味です。つまり、消化器病などの内臓の働きの異常が現れる重要なツボという意味になります。

場所は、向こうずねの内側で、膝の



後ろの横ジワの高さから指幅5本分ほど下がったところにあります。

精力減退、下肢の麻痺、脚気、下腿の水腫、膝関節炎などに用いられます。また大腸炎、消化不良、急性胃炎、胃潰瘍、胃酸過多症、糖尿病など内臓の病気や代謝に

術や検査を延期することにより、収益が悪化し約7割の病院が赤字に陥っています。

しかし「何か症状はあるけども今受診してコロナに罹患してしまうのは嫌なので」と受診を控えた患者さんも多くいたようですが、症状が悪化して一大事というのはほとんど耳にしていません。

世界的な歴史の中でもイスラエルやコロンビア、アメリカのロサンゼルスで病院がストを決行し、救急患者を除いて診療を行わなかったら死亡率が減少したというデータもあります。

正常といえないまでも放っておいても構わない異常もあり、6〜7割は病院に行っても行かなくても構わないものも1〜2割あります。ただし!! 1〜2割は必ず行かなければならないものもあるのも事実なので、絶対に医療を崩壊させては

いけないのです。

問題は、行っても行かなくても構わないものも診て行かないと経営が成り立たない仕組みが問われているのだと思います。日本の国民皆保険は世界に誇れる素晴らしい仕組みだと思います。しかし、このような過剰な医療が進めば日本の医療保険は崩壊してしまいます。

私はいつも言っていますが、命に関わるものと救急なものとは是非現代医学を頼ってください。但し生活レベルの慢性疾患への長期服薬などは考え直さなければなりません。

これを機に医療の仕組みを見直し、本当の病気になった時こそGo To 病院??で、必要な医療を皆が平等に受けられるのが良いのではないかと思います。



二十四節気と七十二候

「くらしのこよみ」より

日本には美しい四季があります。春、夏、秋、冬…折々の豊かな表情は日々の生活に彩りを与えます。日本人は昔から季節感を大切にして暮らしの中に取り入れてきました。

そのよりどころとなったのが、『二十四節気』です。地球から見た太陽の通り道「黄道」三六〇度を十五度ずつ二十四に区切り、その一つ一つに節気を配して四季の移り変わりを表したものです。一つの節気は十五日程度になります。

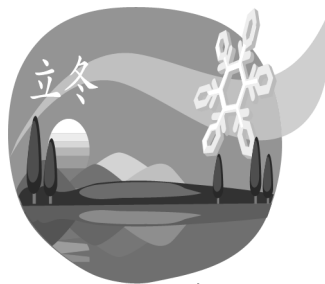
また、二十四節気の一つ一つをさらに三区分し、季節の風物を言葉で表現したものが『七十二候』です。こちらはだいたい五日単位で、その季節の特徴的な自然現象を意味する名前がつけられています。

二十四節気

立冬

(十一月七日)

暦のうえでは、まさに今が冬の始まりです。北国から初雪の便りが届いたり、冬の季節風が吹き始めるのもこの時期です。「今朝の冬」という季語がありますが、これは立冬の日の朝のことです。



『人を惹きつける魅力』

魅力ある人間性とは、良い心づかいと良い行いを積み重ねて、初めて得られるものです。つまり、自分自身に厳しく、人には思いやりの心を持ち、常に報恩と感謝の気持ちで人に接していく努力が大切です。

こういう努力を重ねている人は、若くても、落ち着きと自信が生まれ、それが人の心を自然と惹きつける魅力となっていくのです。

そして、品性が高められると、自分中心の考えで動くような人間は、その人のそばから次第に離れていきます。反対に、その人が道徳をわきまえない、品性が低い、他人の迷惑など考えないような、自分中心の人間ならば、品性の高い人はその人から離れていきます。

「一日一話」より

七十二候 (十一月十八日～二十一日頃)

金盞香(きんせんかさく)

「きんせんか」とありますが、春の車輪のような円い花をつけるキク科の金盞花ではありません。冬の花でも香り高いことで人気のある水仙を指します。この別称の由来は、昔中国で、水仙の花の黄色いところを黄金の杯に、周りを囲む白い花弁を銀の台にたとえて「金盞銀台」と呼び慣わした事によるそうです。日本ではお正月の花としても喜ばれる水仙、吉

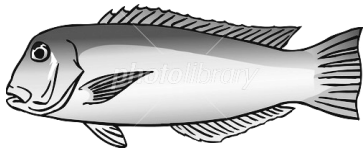


祥の気分が感じられる別称も、あわせて覚えておきたいものです。

旬のさかな

甘鯛

シロアマダイ、アカアマダイ、キアマダイの総称をいいます。焼き物では西京漬けなどの味噌漬け、照り焼き、幽庵焼き、蒸し物では酒蒸し、蕎麦蒸しなどがあります。関西では糸作りの刺身などにも使います。有名な興津鯛は駿河湾産のもので、主に生干しにされました。また、若狭湾のものは、柔らかい身に一塩して保存性を高め「一塩の若狭グジ」として賞味されてきました。



執筆余話

ローマ帝国時代の人々も永遠にこの世の中が続くと思っていたでしょうし、我が国でも江戸時代の人々は永遠にこの世の中が続くとずっと思っていた事でしょう。

でも、今の世も決して完成形ではなく、未来永劫続く事はなく、いつの日か変わっていくのでしょけれど、コロナが急速に変化させ過ぎて、ついていけない感じがします。

新しい世の中で、マスクをする生活にも慣れましたし、店内で消毒液を噴霧する事にも慣れました。

でも最近、患者さんが帰った後のベッドで一生懸命に消毒液をプッシュシュ噴霧すればするほど、患者さんを病原菌扱いしているようで、複雑な気持ちにさせられます。

仕方ない事だと理解しつつも、新しい世の中はこんなんで良いのだろうかなんて思ってしまうます。



11月

○印はお休みです

日	月	火	水	木	金	土
①	2	③	4	5	6	7
⑧	9	10	11	12	13	14
⑮	16	17	18	19	20	21
⑳	㉑	24	25	26	27	28
㉙	30					